

⑭栗駒国定公園 焼石岳・焼石連峰
焼石岳（1,548m）を主峰とし11もの山々が連なり
ます。300種以上の高山植物が確認されており花の百
名山としても知られています。例年6月第1日曜
日に山開きが行われ、10月の紅葉シーズンまで多くの
登山者が訪れます。胆沢側からは中沼コース（山頂ま
での所要時間3時間30分）とつづ沼コース（山頂ま
での所要時間4時間30分）の2ルートがあります。



⑮愛宕神社（高さ15m、直径30m）
こんもりとした岩
山自体がご神体で
山頂には愛宕社が
祀られます。秋田
三吉という大男が
作ったというの民
話も残ります。

⑯大清水上遺跡（国指定史跡）
縄文時代前期の遺
跡で直径20mの広
場を中心に堅穴住
居や土坑などがド
ーナツ状に並ぶ環
状集落跡です。燕尾
形石製品等も出土

⑰石淵ダム（日本初の叫ケイルダム）から胆沢ダム・奥州湖へ
石淵ダムは昭和28年完成。その後水の需要が増加した
ことから新たなダムの建設が計画・着手され、平成
25年に胆沢ダムが完成しました。胆沢ダム管理支所
には石淵堰堤資料室が設けられ、ダムに沈む前の集落
の様子や建設当時の写真などが展示されています。
胆沢ダムの約2km上流にあった石淵ダムは貯砂ダムと
して奥州湖に沈んでいます。



胆沢ダム周辺の展望スポット
ダム直下には⑳馬留広場があり旧穴山堰の遺構が近く
にあります。右岸高台の㉑奥州湖眺望台はダムを眼下
に眺め、胆沢平野を見渡せます。㉒石淵広場は石淵ダム
があった場所でラジアルゲートの一部が展示されてい
ます。奥州湖の水量が下がると貯砂ダムとして沈んだ
石淵ダムの堤体が姿を現します。雨乞いの言い伝えが
残る㉓つづ沼周辺はキャンプ場となっています。



㉒旧穴山堰
胆沢川から前沢
白鳥方面への通
水を目的の開削
と考えられる胆
沢扇状地最古と
云われる堰跡で
す。

㉓馬留湿地のミズバショウ（4月～）
雪解けとともに
開花します。地元
住民有志による
東屋の設置や遊
歩道整備等がな
され環境が保た
れています。



㉔おろせ広場 弘法の枕石
おろせ広場は栗駒焼石ほっとライン沿いにある展望広
場で奥州湖や猿岩を望みます。ここにある「弘法の枕石」
（縦2m、横4.8m、高さ1m）は、弘法大師が猿岩のお
宮を参拝した際にこの石の上で休んだという伝承のあ
る石です。長く石淵ダムの湖底に沈んでいたこの巨石は
胆沢ダム完成直前に地域住民の手によって引き上げら
れ、由来碑などとともにこの場所に移転されました。



㉕下嵐江（市野々）藩境御番所跡
秋田と岩手を結んだ仙北街道には
佐竹藩との藩境御番所がありまし
た。下嵐江に置かれた時期と市野々
に置かれた時期があり、市野々の菅
原家は検断を務めました。ひめかゆ
温泉の西には市野々御番所公園が
整備されています。

㉖猿岩（標高549m）と奥宮
猿岩の中腹に於呂閉志神社奥宮が
あります。弘仁元年（810）嵯峨天皇の
勸請と伝えられ、作神様として深い
信仰を集めています。土橋に選擇所
を設けた後奥宮となりました。猿岩
周辺に自生するユキツバキ群落は県
天然記念物に指定されています。

㉗渋民沢のかね山鉱山跡・千軒原
渋民沢沿いには江戸時代、かね山と呼ばれた鉱山が
ありました。鉱夫の住む宿舎が立ち並び千軒原と呼ば
れる程の賑わいだったと伝えられています。元和9年（1623）
切支丹ガルバリヨ神父一行がここまで逃れ、逮捕された
際の記録「石母田文書」にも「下嵐江の渋民ノ銀山」と
の記載があります。大正から昭和30年代までは営林署
事業のため住宅や学校も開設されていました。



古の古道 旧仙北街道（―――赤い線がルート）
いつ頃開削されたのかはあきらかではありませんが、古くは朝廷軍による蝦
夷征討など、東北の歴史の重要な場面でこの街道が使われたと考えられて
います。古道は水沢で奥州街道から分かれて西に進み、下嵐江からは約24
kmの山入りと称した奥羽山脈を越えて秋田に入る険しいルートでした。下
嵐江には江戸時代まで御番所も設けられ、旅人や物資の流通が監視されて
いました。古道沿いには江戸時代の追分碑などが残されています。大正時
代になり北上と横手間を結ぶ平和街道（国道107号）や鉄道が開通すると
しだいに使用されなくなり地図からも消えていきましたが、平成になって古
道の踏査が行われ、街道がつかなく秋田県東成瀬と岩手県胆沢の交流も行わ
れています。古道はブナの原生林が手つかずのまま残る深山を縫うように
岩手と秋田をつないで人々の歴史を今に伝えます。（QRコード 読取で案内所へ）



❖小夜姫伝説❖
掃部長者の強欲な妻は神罰が下り大蛇となり、人身御供を要求し里の者を苦しめていました。その年の人身御供にと連れてこられた九州松浦の小夜姫。心優しい小夜姫の念仏で大蛇は成仏することができました。胆沢には小夜姫伝説に由来する地名などが多く残されます。化粧坂で身を整え、あか川で手足を清め、四ツ柱に組んだ檜の上で念仏を唱えます。肌身離さず持っていた持仏は化粧坂のお堂に寄進し、薬師堂の清水は眼病に効験ありと伝えられています。

❖大堤❖
昔から小山油地と前大畑の境は大堤と呼ばれています。今でも堤防の跡がハッキリしている所があります。昔が用水路のなかった昔に大きなため池がここに作られ、松の木沢を通じ一帯の稲作の水源となっていました。武士だった盛遠は、農民となり堤の建設に情熱を燃やしますが何度も決壊し、人柱を建てざるを得ない状況になりました。そこへ昔の恋人そっくりの娘が現れ自ら人柱となりました。そこで堤の上に碑を建て供養したということです。

❖前谷地の地蔵田❖ **胆沢の伝説** ❖鶴供養❖
田植えの前日、お爺さんは買い物
の帰りに雨に打たれている地蔵さまを
みて気の毒に思い、地蔵さまに笠を
被せて家に帰りました。その話にお
婆さんは良いことをしたと大変喜
びました。翌朝、田んぼに行ってみると
田植えはすっかり終わっており、地
蔵さまの足元は泥だらけになってい
ました。以来その田んぼはどんな凶
作の年も豊かに稔ったと伝えられて
います。またその地蔵さまの顔の粉
は百日咳に効くと云われ削られて今
ではすっかり凹んでいます。

※言い伝えには諸説あります。

いさわ散居ガイドの会
ご利用案内
料金：4時間まで 2,000円 4時間以上 4,000円
お申込み・お問合せ先『胆沢まるごと案内所』
〒023-0403 岩手県奥州市胆沢若柳字上土橋139
TEL/FAX 0197-46-0360 isawa-k@eins.rnac.ne.jp

編集発行：いさわ散居ガイドの会
協力：（一社）奥州市観光物産協会
発行：2017年9月



胆沢扇状地と河岸段丘
胆沢川が4、50万年かけて形成した胆沢扇状地は、若柳馬留付近を扇の要とし、一辺の長さ約20km、面積約2万haと日本最大級です。地殻変動や海面上下等で胆沢川が低い方へと移動したことによって段々の地形が形成されました。このような形状は河岸段丘と呼ばれ、胆沢扇状地の特徴でもあります。河岸段丘は胆沢平野を南北に走る県道302号（旧広域農道）を通る際に体感できます。

散居集落（さんきょしゅうらく）
田畑の中にポツンポツンと家が点在している様子を「散居集落」といい、胆沢平野の散居集落は富山県砺波平野、島根県出雲平野とともに日本三大散居集落のひとつに数えられ、日本の原風景とも云われています。屋敷の北西にはエグネやキズマが配され、快適な生活環境がたもたれてきました。散居集落ができた要因のひとつには地下水脈が浅く、生活用水の確保が容易だったこともあげられます。



エグネ（居久根）
屋敷の北西に植えられた屋敷林・防風林をエグネと呼び、焼石岳から吹き降るす強風や雪を防ぐ役割を担ってきました。建材となる杉や松、食料となる果樹等が主でした。

キズマ（木妻）
エグネの根元には薪の摒を積み、風除けや境界としたキズマを配しました。薪の需要が少なくなるとキズマは家格や豊かさを表すものとなっていきました。

いさわ路探訪モデルコース
1 いさわまるごとコース（胆沢の主要な史跡、名所を巡るコース）
角塚古墳～散居風景～徳水園～胆沢ダム周辺等
2 散居を堪能コース（農村文化を巡るコース）
散居眺望～供養塚（大臼・大俵）～河岸段丘など
3 胆沢ダム周遊コース（ダム周辺史跡などを回るコース）
眺望台～旧穴山堰～下嵐江広場～猿岩奥宮参拝など
上記のほか、ご希望の箇所だけのガイドも可能です。

①徳水園
昭和32年円筒分水工が建設され長年にわたる水争いに終止符が打たれたことを記念し徳水園が整備されました。園内には水利関係の記念碑が並んでいます。例年4月20日以降に放水式が行われ、胆沢平野の田んぼに通水が始まります。

②国道397号桜の回廊（銀色の道）
若柳土橋付近から西に約7km区間、約600本の桜並木が続きます。昭和初期に郷軍人による植樹が始まりと云われ、昭和39年頃からの緑化運動で盛んに植樹されました。冬の雪の並木は銀色の道の愛称と呼ばれ徳水園には歌碑が建っています。

③寿安堰と茂井羅堰
寿安堰は後藤寿庵の開削と云われ、切支丹迫害によって寿庵がこの地を去った後には前沢の遠藤大学や千田左馬らが引き継ぎました。元々の取水口は大歩橋の上流にあり、その跡がかすかに残ります。江戸時代初めにはすでに完成していたとされる茂井羅堰は扇状地の低位段丘を潤します。北郷茂井羅という女性による開削と伝えられ、生涯をこの堰の開削に捧げた茂井羅の民話が残ります。語り草になっている寿安堰と茂井羅堰の受水者間での激しい水争いは昭和32年円筒分水工の完成をもって解決しました。

④於呂閉志胆沢川神社（おろへいさわかむじんじや）
明治時代に猿岩の猿山明神社の選擇所を土橋に建設、その後、横枕神社改め胆沢川神社と合祀し現在に至ります。「土橋の作神様」として信仰を集め、春の例大祭には猿岩のユキツバキの枝とクマ笹を祈禱したものを御守り札とともに家に持ち帰り水田の水口に刺し拝む風習が現在も続いています。本殿奥の「旧伊達宗章靈廟厨子」は県文化財に指定されています。



⑤増沢塗（及川漆工房）
衣川で盛んだった漆塗りの増沢塗は、ダム建設やその後の地滑りなどで集落自体が移転、現在は及川氏が増沢塗の唯一の塗師です。



⑥供養塚ポケットパーク
大臼と大俵が展示されています。大臼は直径2.4m、高さ2m、重さ7t、樹令600年のカナダ産スプルース材で作られています。大俵は直径2.5m、長さ4m、重さは5t。どちらも例年2月第2土曜日開催される「全日本農はだてのつどい」で使用されます。

⑦供養塚
江戸時代に施餓鬼供養を目的として築かれた塚跡です。この場所にあったシロヤナギは塔婆が根付いたものといわれていました。



⑧清水下遺跡
石包丁（県指定文化財）が出土。弥生時代中期のもので穂首を刈る道具です。その時代から稲作が行われていたことがわかります。



⑨角塚古墳（国指定史跡）
5世紀後半に造られた本州最北端の前方後円墳です。誰が眠る墓なのか謎ですが、朝廷と密接な関係をもつ地元の有力者であったと考えられます。さよ姫伝説の大蛇の角が埋葬されたことから「角塚」と呼ぶという言い伝えがある他、「一本杉」「塚の山」という愛称でも呼ばれており地域のシンボルとなっています。古墳の復元模型や出土した埴輪などは郷土資料館に展示されています。



⑩小山飛行場跡
太平洋戦争末期、小山柴山に陸軍特攻秘密基地が建設されましたがわずか2機の着陸を見ただけで終戦を迎えました。2000人以上が学徒動員され滑走路建設に従事しました。現在は記念碑が建立されるのみでその面影はありません。

⑪菅江真澄（歌人・紀行家）
菅江真澄は江戸時代の60日ほど徳岡肝入村に滞在し紀行文『かすみ駒形』をまとめました。1年の農作業のはじめの行事「農はだて」などが記録されており貴重な資料となっています。村に家があった場所には歌碑が建立されています。

⑫八幡神社
寛永16年武田五郎左衛門による勸請等が伝わり、本殿と棟札が岩手県指定有形文化財となっています。衣川では現在も一部の区間で使用されています。最終湧き出し等の保存活動が行われています。



⑬葦名堰（二の台堰）
衣川の増沢より取水し二の台に通水した総延長2.4kmの堰です。寛文5年（1665）共用が開始されています。衣川領主の葦名氏による指導と云われ、衣川では現在も一部の区間で使用されています。最終湧き出し等の保存活動が行われています。

*伝説の安倍の道（逃亡ルート）
前九年の役の際、追手の源義家から安倍氏が逃げた際のルートが『安倍の道』として伝えられています。衣川の一首坂から八幡神社、替馬檀を通り倉前神社で迂回して兎口柵を通り大歩、小歩を経て胆沢川沿いに進み鳥海柵へ至るコースです。八幡神社は義家が貞任討伐を祈願、替馬檀は義家が愛馬の不調から馬を替えたところ、若柳の大歩は追手が追った貞任が大股で歩き、小歩は歩幅を小さくしたことからと伝えられます。大歩の阿部家は安倍氏の子孫と伝えられ延久年間から現在まで続いています。